

■「タックル自慢、夏に鍛える－1部6校のLBたち」①

スピードが武器－帯広畜産大

8月3日、帯広市稲田町の帯広畜産大のアメフト部グラウンドでOB戦が行われた。秋季リーグに向けて仕上げを急ぐチームに先輩OBが胸を貸す恒例のゲームだ。OBチームのダイブに、LB石村周也（4年、札幌清田高）がハードタックルを浴びせた。オープンランでも鮮やかにロスタックルを決めた。LB安澤十野（2年、帯広柏葉高）も厳しいタックルでRBのファンブルを誘った。2年ぶりに1部リーグのAクラスに戻ったカウボーイズの勢いを象徴するLB陣のプレーだった。

4人の1年生を含めて選手17人の少数精鋭で臨む今季の帯広畜産大。攻守兼任の選手が多いだけに、守備の時間をできるだけ減らすことが勝利への大前提になる。4-3守備で、守りの司令塔役でもあるLB陣は石村、西村駿佑（3年、石川・明倫高）、安澤の先発組を卯野優翔（3年、兵庫・洲本高）、宗像海斗（1年、札幌新川高）がバックアップする。石村、安澤、宗像はRBと、西村と卯野はOLと兼務だが、LBリーダーの西村は「RB兼務が多いので、動きが良い。反応が早いのが自慢」と胸を張り、練習でも俊敏さを高めるメニューに力を入れている。

LB陣のスピードをアピールしたのが6月30日の北海学園大とのオープン戦。試合は7-41で敗れたが、3本のインターセプトのうち卯野と石村のLB陣が2本を決めた。石村は「インターセプトは狙っていた。試合の流れを持ってくるプレーだから」と振り返る。

西村は「もっとボールを狙う」とどん欲なタックルも強調する。インターセプトとともに、ターンオーバーで守備の時間を減らすためだ。秋季リーグ戦に向けて「今季はファンブルフォースを狙う。アクティブな守備を目指す」と力を込める。守備力でゲームをコントロールし、北海道大、北海学園大の2強を崩せば、悲願の初優勝も見えてくる。石村も「北海道リーグに新しい風を吹かせたい」と宣言した。（塚田博）



「反応が早いのが自慢」と意気込む左から安澤、西村、石村のLB陣